

保育目標	心身ともに健やかで、生き生きとした子ども
重点目標	「子どもと共に探求する保育」～子どもの「おもしろい！」を対話から深く読み取る～

項目	重点項目	達成目標・具体的施策	年度末評価
学びの場である保育の充実	「愛情」を基盤とした自己肯定感の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自己肯定感を育むような関わりについて職員間で考える機会を年1回以上持つ。 ・保護者アンケートにおいて、「職員のお子さんへの接し方について」という項目への肯定的な回答が85%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議内で写真の読み取りや書籍の読み合わせを通して子どもの姿を肯定的に捉えることを共有してきた。子ども一人一人との関わり方を振り返り、保育を見直す機会を設けてきた。スキップを取るだけでなく一人一人の子どもの気持ちに寄り添った関わりを意識して保育を行うことができた。自己肯定感を育むことを意識した話し合いを継続できるよう取り組んでいく。 ・保護者アンケートで90%以上の肯定的な回答があった。
	資質・能力を育む保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児共に、月1回以上話し合いや読み取りを行い、子ども理解を深めて職員間で共有する場をもつ。 ・子どもの姿を共有した上で保育が深まるよう、室内・園庭環境の再構成を月1回以上行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解を深められるよう話し合いや読み取りをしてきた。継続が難しい時もあったが、写真や動画を使用することで子どもの姿を共有しやすく、環境の再構築に繋げることができた。来年度は、「3つの資質・能力」や「10の姿」の観点での読み取りをより深め、保育の質を高めていく。
	ちがいを認め合える仲間づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が人権意識を高められるように、年2回以上の研修を行う。 ・保育の中で「みんな一緒」ではなく一人一人違うことがあることを知り、年3回以上振り返り話し合う機会をもち認め合える関わりをしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北部ブロックでの研修や自園でのDVD研修、人権研修の中でグループ討議を通して、自分の価値観や考えを伝えるとともに相手の意見から様々な考え方があることに気づき、人権意識を高めることへつながった。 ・『一人一人が大切な存在』という観点から職員の中で話し合い、それぞれが新たな発見をする機会になった。職員が一人一人を大切にすることで、子どもたちが互いの違いを認め合える関係づくりにつなげていきたい。
	健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな体作りにつながる食育や生活習慣について、園で収穫した野菜や季節の食べ物について子ども達自身が興味や関心をもてるように話をする機会を年に2回以上もつ。 ・乳幼児共に体を動かして遊べるよう近隣の公園へ散歩にいたり、リズム遊びや園庭などで全身を使った遊びができるよう環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜や花の世話、収穫して食べる機会をもったことで食材に興味を持つことができた。引き続き、食べるまでの過程や発見したことを関心に繋げ、食の大切さを考える機会にしたい。 ・園庭の築山を作ったり木材などを用意したことで、子ども達が組み合わせ、全身を動かして楽しむ機会が増えた。今後も自然と体幹づくりにつながるような環境を整えていく。体幹づくりの活動してリズム遊びをしているが、年間計画をたて年齢や発達に沿った取り組みを園全体で行うことが必要である。
保育者の資質向上	職員研修・園内研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いた園内研修を年1回行う。 ・職員が参加した研修での学びや気づきを園内で研修後、2週間以内で実践することを心掛ける。 ・月に1回以上読み取りを行い、子どもの姿から育ちや学びを見つめる視点を職員一人一人が身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招いた研修を通して、子どもの主体性を大切にしたい保育環境の重要性を意識しながら保育することを心がけてきた。 ・他園や研修で学んだことをすぐ実践することを心掛けた。環境の再構築に取り入れる時期を逃さず研修での学びをひとつでも実践すること、また読み取りの機会を定期的に設定し、子どもの育ちや学びをみつめる視点を共有していくことが課題である。
	チーム保育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回以上行う読み取りや話し合いの中で、写真や付箋などを使い視覚化することで全職員が自分の思いや考えを話せるようにしていく。 ・乳幼児の情報をリーダー同士で伝え合い、各クラスへと伝え園全体で連携しあいながら子ども達一人一人の姿を共有しチーム保育力が深まるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や動画で子どもの学びの芽を職員で話し合い読み取ることで保育環境の充実や豊かな遊びへとつながられるよう努め、職員の意識も昨年よりも向上してきた。 ・乳幼児共にワンフロアで過ごしていることもあり、異年齢での関わりはあるが職員間の連携や子ども達の姿の共有には課題が残る。乳児間・幼児間でチームとして連携ができる関係づくり、話し合いの場の設定を設けていく。 ・子ども達の姿を言葉だけではなく動画や写真を使用しながら共有することでチーム保育力が深められるよう、定期的な話し合いの場を継続する。

開かれ信頼される園づくり	園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを月1回以上更新する。 ・保育システムを使って週1回、子どもの姿を発信したり、月1回以上動画配信をする。 ・「こどもだより」を玄関にファイルしいつでも見ることができるようにするなど、来所者にも情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当を決めたことで、月1回はホームページで保育所での様子を配信することができた。来年度は乳児、幼児、食育など月2回は保育所の取り組みを発信していく。 ・幼児は週1回以上の『こどもだより』と月1回程度の動画配信を、乳児は不定期で動画配信を行い、日常の遊びの中で子ども達の発見や学びの芽を保護者に伝えることができた。乳児の動画配信の回数を増やしたい。保護者以外の来所者への情報発信のひとつとして行っているこどもだよりの玄関掲示とファイルでの閲覧を継続する。
	小学校教育との接続	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校に出かける機会をもち、子ども同士の交流の場を年5回以上もつ。 ・近隣の小学校に自園の園内研修の案内をしたり校内研修に参加したりして、互いの教育保育内容を知る機会をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の反省を生かして小学校との交流の機会を増やした。2学期からは天神川小学校との交流も始め、職員間で年間計画をたてて参加型の交流を図ったことで小学校への期待感が高まり、安心感へとつながった。 ・小学校の研究授業に2回参加した。互いの教育保育を知る機会を今後も持っていく。架け橋期のカリキュラムを意識しながら日々の保育に活かすことが課題である。
	地域交流 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の田んぼやレンゲ畑・公園に出かけたり、実際に田植えの仕方を教えてもらったりする機会をもつ。 ・園庭開放を行い、地域の親子が来所した際には意識して声をかける。 ・送迎時に保護者と積極的に会話し、子どもの育ちを伝えることを全職員が意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き、地域の田んぼやレンゲ畑に出かけて実際に地域の方と触れ合い交流する機会をもった。地域との交流を大切にし、子ども達自身が疑問に思ったことを調べ、「やってみたい」と意欲的に取り組めるようにしていきたい。 ・園庭開放の周知を図っていく。 ・保護者には子どもの育ちや学びを意識して発信してきた。子どもの育ちを語る視点を職員間で共有し、姿を共通理解したうえで保育所で乳幼児期に大切にしていることをわかりやすく伝えることを継続する。 ・ビオトープ作りでは、地域の方よりアドバイスをいただき、保育所の自然を活かした環境作りを考えるよい機会になった。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練年間計画表を作成し、毎月1回以上、避難訓練を実施する。 ・災害発生時の待機中に必要となる備品や備蓄品を用意し、年1回点検している。 ・毎月1回保育所、こども園、児童発達支援センターの担当者が集まり、リスク担当者会を開催し、各園のリスク事案について共有し再発防止に努めている。 ・リスク担当者会で検討し、作成した各種マニュアルを全園（保育所、こども園、児童発達支援センター）で共通理解し、安全・安心な園生活を送れるよう職員一同努めている。 		

<p>次年度に向けた重点的な改善点</p> <p>今後取り組むべき重点的な課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの資質・能力を柱に職員間で子どもの読み取り方を再確認することで、より子ども理解を深め保育の資の向上に努める。また子どもの育ちを保護者にわかりやすく発信していく。 ・小学校との交流を計画的に進め、架け橋期のカリキュラムを活かして、0歳児からの育ちを積み重ねていく。
---	---